Y02b　講演活動が若者に与える影響の調査　-講演は若者の知離れを阻止できない-

○縣　秀彦（国立天文台）、山本泰士（電通大）、永井智哉（国立天文台）、渡辺　裕（東大附属中等教育学校）

1998 年、NASA の宇宙飛行士ジャン・デービス博士とマーク・リー大佐が，東京大学附属中・高等学校にて１時間３０分の講演を行った．この講演の前後に，同校中学１年生 120 名に対し，宇宙開発に関する知識や興味・関心に関するアンケート調査を行ったところ，講演会によって生徒の知識や興味・関心が大きく変化したことが認められた．これは本物にふれることによる効果を明確に示す事例である．ところが，２年後同じ生徒に対し，同じアンケート調査を行ったところ，知識はある程度残っているのに対し，興味・関心は，講演前のレベル以下にまで落ちこんでいることが確認できた．この調査から，一般的に，現在の日本の中等教育段階の子どもたちにとって，第一線で活躍している人物の講演を聞くような体験は，子どもたちの知的興味に対する一時的な刺激になることはあっても，その時，高まった興味関心を維持できるような事後の継続的な指導がなければ，子どもたちの興味として定着しないのが通常だと推察される．また, 将来，宇宙飛行士を目指すといった強い関心を示す子どもは，講演には影響されず，中１段階ですでにほぼ固定化していることや，宇宙開発への興味・関心の性差が中３まででほぼ解消されている点が明らかになった．本講演では，この調査の詳細を報告するともに，研究機関から初等中等教育への支援活動として，講演活動よりも効果がある方法とは何かを検討する．